2018 台湾家族旅行

右城　猛

1. まえがき

夏季特別休暇を利用し､8 月 19 日から 3 泊 4 日の日程で長女一家と家族旅行をした。次女は出産を控えており、ファミリー全員で行けなかったのは残念であった。

行き先は台北。私は 6 回目、家内は 3 回目であるが、娘たちは初めての台湾である。

1 日目　8 月 19 日(日)

14:30　ジャンボタクシーで自宅発

16:30　高松空港着

19:05　China Airline C1179 便発

20:45　桃園国際空港着

22:30　ホテルオオクラ着

2 日目　8 月 20 日(月)

8:30　ホテル発　十分、野柳地質公園、九份観光

16:30　ホテル着

18:30　フカヒレの店「鼎極魚翅」で食事

3 日目　8 月 21 日(火)

9:00　ホテル発　台北市立動物園、北投温泉加賀屋旅館、台北 101

17:00　ホテル着

19:30　士林夜市散策

4 日目　8 月 22 日(水)

8:30　ホテル発　忠烈祠、龍山時観光

11:00　鼎泰豊(本店)で昼食

12:30　桃園国際空港着

14:30　China Airline C1178 便発

18:05　高松航空着

19:00　ジャンボタクシーで高知へ

21:00　自宅着

China Airline の機内

2. ホテルオオクラ

ホテルオオクラ(大倉久和大飯店)に到着したのは現地時間の 22:30。日本時間の 23:30 であった。

部屋に入ると、JTB 高知支店の眞田直也支店長から、右城家と堀田家にそれぞれトロピカルフルーツの差し入れがあった。いつもの心配りに感動した。

バスケットにはマンゴー、ドラゴンフルーツ、レンブー(蓮霧)、グァバ(芭樂)、バナナ、リュウガン(龍眼)が入っていた。

マンゴーは美味しすぎ。リュウガンは初めて食べた。見た目も味もライチによく似ている。台湾ではよく食べられるようだ。

朝食のバイキング

JTB の現地ガイドは蔡さん。ジャンボタクシーが来るのをロビーで待つ。

3. 十分(じゅうふん)

最初の観光地は「十分」。ここは昔、炭坑があった村。ガイドの蔡さんの説明に寄れば、「十分幸せになれますように」が地名の由来とのこと。「九份」という地名はあるが、「五分」や「六分」といった地名は存在しない。

十分の名物は天燈飛ばし。紙で作られた天燈に自分の夢を書いて空に飛ばす。空の上には神様が住んでいるので願いを叶えてくれる。

天燈は９色ある。その中から好みの色を選ぶことができる。

朋男君と航希の組は、健康に恵まれるようにと赤色を選んだ。和恵と祐希は金持ちになれるようにと黄色を選んだ。私と家内は、会社の発展を願って迷うことなく青色を選んだ。

天燈に自分の願いを筆で書く

天燈を飛ばすのは列車の軌道敷。ここは山中なので平地がないため。1時間おきに列車が来る。

紙袋の中で、灯油をしみこませた布に火をつけると袋が膨らんできた。

手を離すと天燈が天高く舞い上がった。原理は気球と同じ。

天燈が落ちると山火事になる恐れがあるが、十分は年中湿度が高くその心配が少ない。そのため、台湾で天燈上げが許可されているのは十分だけ。

最後は朋男君と航希の天燈を飛ばす。その前に全員で記念撮影。十分に来たのは初めてであったが、十分に満足することができた。

土産物を見る堀田ファミリー。

袋の下端を広げるための竹ひご。竹ひごには灯油をしみこませた布を引っかける針金が着いている。

4. 野柳地質公園

野柳地質公園には、風蝕と海蝕が 1000 万年の年月を繰り返してできた数々の奇岩がある。

ここに来るのは平成 25 年の社員旅行のとき以来。当時に比べて観光客が随分と増えている。

ガイドの説明によると、観光客のほとんどは中国人。中国人は海に憧れているが、日本人にはあまり人気がないとのこと。今回の旅行は JTB に企画してもらったが、野柳はコースに入っていなかった。ここには、新鮮な魚を料理してくれるシーフードレストランが 6 軒ほどある。九份に来るときは、昼食はここに限ると思っていた。

5 年前に来たのは 6 月であったが、とても暑かった記憶がある。今回も暑く気温は 33 度あった。

野柳地質公園の目玉はクイーンヘッド。この前のベストスポットで写真を撮るため観光客が列をなしていた。とても暑く、並んで待つことはできないので、クイーンベットの前方に行って記念撮影をした。

奇岩を額縁にして記念撮影。

ガイドが予約してくれていたシーフードレストランでいろいろな海鮮料理を食べた。メインディッシュには水槽で泳いでいたハタハタを料理してもらった。

5. 九份

九份は山の斜面に作られた街。「昔、9 人しか住んでおらず、誰か一人が町に買い出しに行って、”九人分下さい”と言っていたのが地名の由来」とガイドが教えてくれたが、ネットで調べると、「開墾した土地の持分を 9 人で分けたもの」の意(ウィキペディア)とあった。

日本統治時代には藤田組が金の採掘を行い、金鉱の街として栄えた。今でも日本統治時代の面影を色濃くとどめている。

二・二八事件を題材にした映画「非情城市」のロケ地として脚光を浴びるようになった。また、宮崎駿のアニメ『千と千尋の神隠し』のモデルになったという噂もある。

九份の商店街へ行くにはこの急な石段を上り、帰りもここを降りなければならない。

以前は上まで車で行けたが、観光客が増えたため、現在では車が行けるのはこの階段の下の駐車場までとなっていた。

祐希が、「ここは、金比羅さんみたい」と言った。ネットで調べてみると、石段の両側に土産物屋が並んでいる風景がこんぴらさんに似ていることから、2018 年 5 月 31 日に、台湾新北市瑞芳区と香川県琴平町が友好交流協定を結んでいる。

映画「非情城市」のロケに使われた「阿妹茶酒館」をバックに記念撮影。

「阿妹茶楼」でお茶を飲みながら休憩。九份は3 度目であるが、3 回ともここでお茶をいただいた。ここの茶菓子が美味しい。

5. フカヒレの店「鼎極魚翅

李登輝元台湾総統の秘書をされていた小栗山雪枝さんと一緒に、フカヒレの店「鼎極魚翅」で食事をする。

この店には、5 年前に第一コンサルタンツの社員旅行で来た際、矢田部先生の紹介で愛媛大学のグループと一緒に来ている。そのとき食べた「フカヒレコース」の味が忘れられず、いつかは家族と一緒に来たいと思っていた。

小栗山さんとは、今年の 7 月 26 日に高知県日台親善協会でお会いする予定であったが出張のためできなかったので、そのお詫びの意味もありお誘いさせていただいた。

平成 24 年に坂本龍馬記念館の森健志郎館長ら龍馬財団のメンバー35 名で淡水の李登輝事務所を訪れたとき、李登輝さんから 90 分にわたるレクチャーを受けた。その中で、世界の歴史、文学、政治、経済、哲学、科学など広範囲にわたる専門用語が次々と出てきて驚いたことであった。

このことを小栗山さんに話すと、「李登輝さんの読書量はものすごいです。本をたくさん読むことが大切ですよ」と教えて下さった。

小栗山さんの話は、歴史をまじかに感じることができ大変勉強になった。

この店は日本人客が多いようで、日本語のメニューがあり、定員は日本語が上手である。

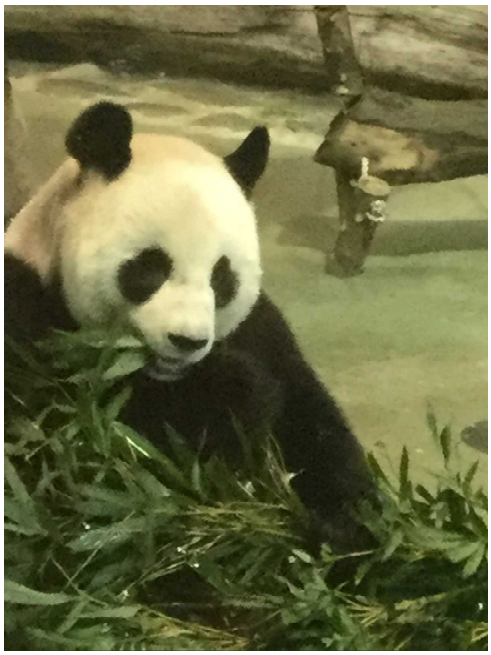
最後に挨拶に来た若いイケメンは、この店のご長男の蔡君。日本にも語学留学をしていたということであった。

大きなフカヒレが入った料理。

6. 台北市立動物園

3日目の最初の観光地は、台北市立動物園。ここの目玉はパンダとコアラ。中国から寄贈されたオス・メス一対のパンダがいた。この他にもう一匹この動物園で生まれたパンダがいるそうであるが姿は見えなかった。パンダが食べている笹は、すべて四川からの輸入。3 匹のパンダの専属飼育係が 12 名もいる。建物は冷暖房完備。贅沢なパンダである。飼育費も半端でない。

朝一番なので入館者はまだ少なかった。



笹を食べるパンダ。9時の開館と同時に入ったので入館客は少なく、パンダをじっくり見ることができた。普段は行列ができて大変らしい。

園内を移動するシャトルバス

7. 加賀屋旅館

北投温泉にある加賀屋旅館(日勝生加賀屋国際温泉飯店)で温泉に浸かり、その後で昼食。

メイン料理は、子供たちは「ちらし寿司」、朋男君は「焼き魚(鯛)」、私たちは「鰻重」を食べた。美味しいが量が多く食べきれなかった。

最初のサラダ

前菜料理

8. 台北 101

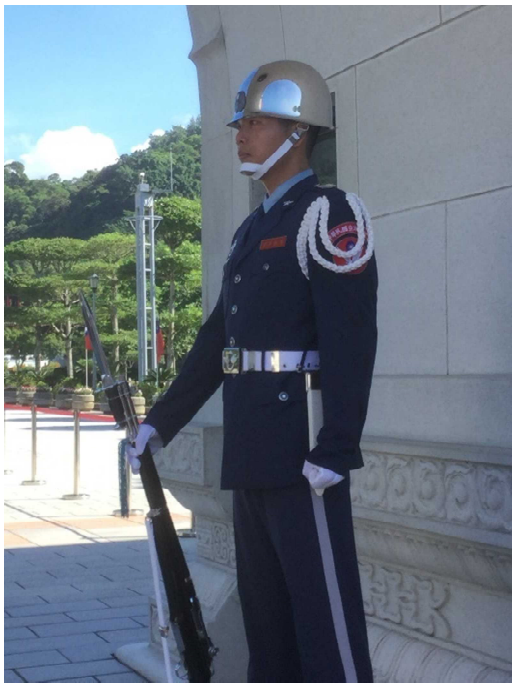
地上 101 階建て、高さ 509m の超高層ビル。展望台 89 階まで 37 秒の速さのエレベーターに乗った。

地下の「スムージーハウス」で、話題の「マンゴーかき氷」を堪能する。美味しすぎる。

9. 台北忠烈祠

最終日の最初の観光地は台北忠烈祠。円山ホテルの近くにある。

国のために命を落とした英霊が祀られている。ここに来るのは 4 度目。それにしても暑い。気温は 33 度。



忠烈祠の正面の門番。衛兵が瞬き一つせずに不動の姿勢で立っている。

毎日１時間ごとに衛兵の交代式がある。9 時から始まる交代式を見物する。

10. 龍山寺

旅行の最後の観光先は「龍山寺」。仏教、道教、民間信仰の様々な神様が 100 人いると言われる台湾屈指のパワースポット。社員の健康と社業発展を祈願した。

11. 小籠包の店「鼎泰豊」

鼎泰豊(ディンタイフォン)の本店で昼食。この後、桃園空港に向かう。

本店で食べるのは 2 度目。台北 101 号店、中国の大連店でも小籠包を食べたが、やはり本店が一番美味しい。

以前来たときも店の前に行列ができていたが、今回も同じく大勢の客が順番を待っていた。

鼎泰豊本店の前で

この店の小籠包は世界一美味しいということもあるが、定員の対応がとてもよい。ここを案内する現地ガイドは、この店の素晴らしさを自慢するので、ネットで調べてみた。

現在会長をしている楊紀華氏の父親が食用油の問屋をしていたが、経営が傾いた 1972 年に窮余の策として小籠包売りを始めたようだ。

転機は 1996 年に高島屋と提携して、海外 1 号店を東京に出店したとき。それまで全てを職人の勘に頼っていたのを完全にマニュアル化したこと。

2018 年 4 月時点で世界 11 カ国に 146 店舗を出し、年商は 30 億元(100 億円)に達している。

社員の離職率は 2%。台湾の平均離職率が 30%であることを考えると信じられない低さである。社員の初任給は 14 万円。台湾平均が 7.7 万円だからダントツに良い。

楊紀華会長は、「勉強し続ける」、「品質を高める」、「人の育成」を経営の 3 本の柱にしている。「品質は命」、「ブランドは責任」これを果たすため、人材育成には惜しみなく金をかけているようである。

12. あとがき

台湾旅行の 2 日目が暑かったせいか、3 日目は体調が思わしくなかった。家内と私は、台北 101 に上がるのはパスしてホテルで休憩することにし、北投温泉から直接ホテルに送ってもらった。

夜の士林夜市の散策も、私と航希は遠慮してホテルで留守番をしていた。

出発前の天気予報では、台湾はずっと雨であったが、来てみれば現地はどこも快晴。一度も雨に遭遇することなく楽しい想い出に残る家族旅行となった。

また、日本を台風 19 号と 20 号が襲っており、帰国する 22 日には 20 号が四国を直撃する心配があった。しかし、まったく問題なく予定通り帰国することができた。

【2018 年 8 月 25 日記】